

昨年11月、所要の大会に参加するため、埼玉県川越市へ出掛けました。午後から始まった大会は定刻どおりに1日目が終わり、川越の名所の一つである蔵造りの町並みを見るために、急いで会場を出了ました。時計は既に5時を回っていて夕闇が迫り、初めて訪れる名所はなかなか見つかりませんでした。

そのとき、帰宅途中と思われる女子学生が通りかか

りました。私は勇気を出して「蔵造りの町並みが見られる通りはどこですか」と聞いてみました。女子学生はにこやかな顔で「通りが1本違いますので私が案内します」と言っています。そして、店じまいを始めた蔵を見ながら「この蔵は昔は〇〇でしたが、現在は〇〇になっています」「こちらは昔からのお菓子屋さんで〇〇が有名です」と丁

寧に説明してくれました。おかげで町の歴史や、町並みを大切にしている市民の姿が分かる思いでした。

お別れするとき、失礼かと思つたけれど「どうしてそんなに詳しい説明ができるのですか」と聞いてみました。すると「私たちは小学生のころから町のことを学び始めて、中学生、高

名ガイドの女子学生

校生になっても町を案内できるように練習しています

す」と答えました。さらに「先月は川越祭りがあり、2日間で100万人近くの方々が来てくれました。ぜひまた来てください」と言つて去っていきました。爽やかで素晴らしい名ガイドの女子学生に「ありがとう」の一語に尽き、心温まるひとときでした。

(安曇野市穂高、荻原義重、75歳)

口 差 点

こうさてん